国立国会図書館　　草白露 208-27

ガラス使用

# 市川申車草白露

208
特別
27

国立国会図書館　草白露 208-27

ガラス使用

中車
生先 草白露

鬻子ニ云一婦死而為レ妖ト化ス二於将軍

李氏ニ一と云ハ市川八百蔵が寿病小兒

せい表紙なるらん。其病躰紙なりけれバこそ

さく小さけれども、これが為のもとゐなるべし

ともなりぬらん

中車中

福田文庫
国立国会図書館　草白露 208-27
ガラス使用

頃ハおれ六ッのとし六月中すのころなりけり。
この日ハ中車いつよりも早(つと)小屋(がく)て。嗽(くちすゝぎ)し
浴湯(ゆあみ)をバ下女のさの釜沸(わか)してくれと云(いゝ)し。
女房おるやうし若とき家中奉が鬢(びん)
ばかりでつけなかりけり

［ろや］おかみの湯小おいぐあたらざるを湯所
の仕切ぞかし。龍王世のよ付五十文おいて之
ました

［中車］こいつハおらも二枚めにおさ
めでしをい手附。侍衆めもなのうちゆりに。
切おい初積てなをに上下ばきるてやらふ。
コレ十郎。大丸へ上下を誂(あつら)へて来てくりやれ
十郎いこころさしそくよ大丸へけり。のを
下げけの肚へ御ぶあつらる君子(つが)の寺へ云
後(のち)ひ積ぎ云ひなふうりをり

［ろや］利し旦那へ帰しぞおかるすもえ召せひ
おきに八十六ケ年まえ。その龍王世にまざりしらハ

国立国会図書館　草白露 208-27
ガラス使用

まへの魚屋(ぎよらく)さん。あきなひさつさ兄さんかその
油がみで二枚め。ちく綿の魚一切も十六文
ばかりでもどは月のあかりも見ぬ月でたまと
いふて絵ひかるさんこ。その白れ暮がく
う。ツイ中を清いて　ト　ねこつひかけて　おみさじ
中車　息子でござりつ今二ヶの御小
肩(かた)がなしぶる役者(やくしや)がわらふ　ヤコレ　ちるや

あり。ハ今ゟゟ亀井戸へまいりてこゝよ
時已小林遠寺(ゑんま)かゞバ。兄をへ炎魔(ゑんま)ひくきて
あるくの亀井戸へ詣(まうで)。りしや 見よ　ねてりの人を
るやいとあさく出ても中車が奇相(めうけ)ぐちるよ
きせもしみどり子おきつ。亀井戸急へ詠け
居しもと二つのねつらしばらく。嗟(さて)兄ミ
くろし抱(だき)たりく大く着衣の袖にふおやね
かしてばわつ負ふかと。出中りてハとわりをそ
ろや　りしちかごでてく
中車　ござふして　かゞべく

国立国会図書館　草白露 208-27
ガラス使用

おつかけて参れども早舟尾さへ 伊勢路へかけ行 ゆくゑしれず
是非もなき事や 羽州ちらぜきせうゆうおもむき
のこりしわきざしの相でん半兵衛小役の呂九羽
とうふひとつこの事をとしわたく入扇名ばかり
へまあざやの銀だしよびよせそのおかさき伊勢まで
ふきそ住ハ勘助揃りありおろやいやはしく
そのさと子ぶかうさしとつまやりたりけれバ
ぶんすちらしして
るや　そんなら其もとかたりなされへ

ウト返すも口の門がしまり過(すぐ)と舟小舟のる

舟宗のて らふおめしあきらをさせ 中車 いら井

おせ又 せんどう棹(さほ)にを。勘彌 屋をかけて彭がないからハ 勘彌 さアなついハ

なんでもあらうゑ田の如くにして風がお

のふの屋うだ 中車 ぎやうさんな 勘彌 旦那

こゝハ中ぜうすとんごうやうアノ川ぞうこ

の茶ゝ屋の数が二百十八軒とあらう。おそれは

ほんにおかいナ。あれハけどうるさきのはなし
らしやめん豪猪猿のかうけだ。女臣らんばれ
ゆへしなず 中車 けざ物店をみるやうだ
ね 勘助 アレく向の舟ハお猪とあんまぞ
ござりますぞ。客ハおてしるぞ。大たぶさこ
たるまがひかるのしアノお顔がまた一ツヤ
ませう 中車 あんと 勘助 をそやうにのぞち



でかざうろお婦がさうハこく人のいろこのなりや
やした 舟ハおとなく横 おりてゐる 日がてしまんでまあり
はしなすたまをおろしませう
中車 それじやアうつくしい。そつとまいりちん
あがり。おまこふいるうら日がたてる 勘助ハ舟 だきよ支
まをりよ船ハ向者あそうあるう泉お
とうぶさる内舟々亀井戸のおし溝く芸
舟ぐりふり天狗ハ氣語者し。此所の芸お

あるじ御馳走切れける。隠者をさゞいてはけて
かしおさ出だし居並べ入ねぐ。け取らうり
まるか村とつてはる里ふう。ワがる子供郎けを
はれで。ござるさ奈お しかしだん
[ザク] ヤレ
江戸さんよりくるおいせ川たトつちでだしれ
[中車] きさいねつきりもおかいうるりやおる
ずしもお客申しゃうへおづくさあもらんう
やさ色っ。めっしとまふうるまいつるが



芝居が好きでし。別きのふ子秋らくは
いふさ子連て祢ありあがらおうりまでが
新もいさる トいいながら鼻紙袋が小粒
二つそるのこ小一まつみなんぞ
こやげとなんしるがとふくのまかへげさと
御客代を
[うく] あんたしかしおでやるるびくてん
くちもるひ トいひてれつ小さおはい マアく
トまる茂てら殿。六の柿れ本のうげふ
小つしゞ集りまるまして擦るゆりう

八ツ半なる色まへの墨く日か四ツけなるかゞぬ
きり坊主ぷニツ入ある
おきまち卯ねぶい耳れ
中車
風まく
なぶさんちつともぬ目太くなりなさん
夕
く
いゝ汽けて近の身うねアおしく日なか
こへお娘つくお妻やアげつたお
トなこ嫁とつ
なりかほしし
子卯がなれとろつ乳娘さふくめる中ホてこ
なるかでこ鏡ようり小粒一ツ出より出し　パツ入
なる子小四なかゞら

国立国会図書館　草白露 208-27

ガラス使用

中車 これてちりさんなるんぞ孫さうな

久 アニヨウ ひどうしくなりひかつ多かおョ

かんても知らぬおよあつておちやれ

トきのとしかるもアちまこつ居んべ年

お勢 うけ卯ってもりきとらせ俗

ちつとは子のかわいらしいのを見せを海ませ

屋いろ手エツく。アムモくくく。コレは悪い事

とお見やりなせ。ぼんくうこの子より気の



子ともおおとへいもでもアニゑづらん屋い

いいをもらん香さいれでおんじやる。夫ふご

てんどのがからて君もなりくなめてぞろう

夫ぞアりうちくともかんぜもし川さ命り

おもぶ気。かりなイや。江戸アれおじ衣の側で

孫んねいいかおすぐせろ トッ子とトメ至。格控

むござらびゆしらべで。腐く湯のけ本だち どうぞとおもて

やしのおへ。らじんのおつといもる



国立国会図書館　草白露 208-27

ガラス使用

中車　こりやア名しハおいらが名ヤ中ぢやぽ[illegible]
負ヘりしおはなし之あるさんけて　[illegible]
りく　おまんやる事しではなんまいがらずん
とめつてまアらせたいぽ江戸さまおいつてこ之
れぶつのりてむはしと一トロもらいて
おくアやツイ噺がいすくふおたちゆうおせ。
かいもすおやしさるん　てあさす

ト中車が枝をとく〳〵

中車　モウ手足(てあし)佐るもお名し名所(などころ)ニ本場へも
よつておいまバそれでハお町うあがらうと
なりしやそどう村ハ其はなしたてのはげ
御勤めりういやしてもおひう
くハ田舎(いなか)のあるひとで咲るけあく引とある
中車へつて居れ名あるせれどもくるや
あるゑんせんむりふいてけふりもるせ
りく　こう流あどこあるさわんまりだんのふ

国立国会図書館　草白露 208-27

ガラス使用

ろじやもあれかし。の比十七八あるに
も窈窕（ようてう）なる淑女（しゆくぢよ）のさこてもすさとおり
こゞりの墨かと打ながめ。みるちりめん
の黒ちよまへわやのしごきをとひむすび
しほくと結まへ。身も新たやつれく
と折あり。あまたご袖ふかくし
【まつ】ど ふよく八男のうせ。急ぎされやなひ八
女のおりかうむいらもとい。あうし
これをつらせしもんていなうるさがしまる

むしと角つく。ぎりもおさけも絹（わさま）へぞ。よふ
もしくおひでさんこ又ならいしも始末て
うぶさいついさうし由へとかいと我身とう
らんでもわきてめちまね成の女せ。物書
せ身はせ見ていそ思の為へぐしく。おろく
いあり少こる者のたで取りくと大悦そふ思
きうせてとびあくてかりしる兼をして

さても多くの人をだましける。浮名の
たゝぬ流れの身ハ。神やほとけにちかひ向く
又浮世の情なや。時のそこ折あられ
も咲もなやかるや。おまへと秀が山の恋
冬アハ庭面にうハ雪とぱつさびしくあへ
久る。おんいのちむくよ中にこがされ。浦くさ
ぢしより身をなげし。深き恨をハ浮川の

底のりとなどさかしむる。ばさ紙にうし
はなし。さ汁声ハ日かてきれきを汲
かハらぬ流れてゞしこの洲先すそより
たる。我なげくる所にしる。此浦人の仕上て
掻集て塚となし。一本のそのがあざみ
らしあれ人もんゆゑが。その情ハ知るや
かゝちハまてても心ハまなかぞくんゑのさづけ

国立国会図書館　草白露 208-27
ガラス使用

そてしまく。君さへ逢ふていることのかつ。也
ふびんとも思(おぼ)さねばこそ。姉娘とふハおまへ成
身に取りなさんと我亥か。思ひはめても
叔されだおとなが因果(えんぐわ)情なき。娘との会
ゑもおしらず弟。見られて帰るぶがひなれ
おそこも志んいの毛に帰り。そこ女ハ恐之へおお
の身てえぬわざか清身をあや[illegible]

清らの君と思ふてこそもおみんの走行。十まも
たらぬ稚子(がきう)とも。ましみとしなと添ふてぞふ
なりまい。さりハ親と。夜半さひ日本なりなし
無下に浅しき淡。消の前ハ火の雨と。嵐
てけ身か打やくらましかへ。ふかしひろいな
眼めしいと おく さゝ先くくと
中車 やゝ あんまさ。
おりはちおもしぼと聞し虎。どふぞのせつりと

むかしも今も。欠落せし小指こそ。みな心がら果(はて)さ
畜生(ちくしやう)め。人付合かくどふしてむかしもしと
此恩をしらんで去りにし扨はそなたは
死ぬるつもり。あの人がたんでくくけもなんと
なるなもなりしぞ。夏ではなくひろ心を
おもしろからぬ狂気(きやうき)の如くなぐさみ
[それ]こうやおうりし。船いられて立波なに小

国立国会図書館　草白露 208-27
ガラス使用

そんなまね仕てはづかしきそのかつお秀さん
がきんな附そんなことはなおまへあんじいけ
わりいゐしいわさるせうそのご　[中車] 笑へ
ぬぎゑコレおまアつ。お秀が松おして極乃か
さうし五月の十日の夜。待合の一世なて
庭おもりてそろ／＼かならずだ。打かけして
いうちのまね。先生尊よぶつ参れぞちう



とのやうが衿のうさうて、大やさまよくかゝつあらふ
わつつれ御きの近まなら。ん志やぼくまいき参り
誰（たれ）でもだしあん。わのどうかよ述お出どうか方れ
こいイヤわまをもさし参差してゐるいことあり
なしふ女めが。お秀をよんで来りし。待合
のわるあるひ。さあいてしたゞわつけあく
連もなるわしてし休む床（とこ）。もよし姫か、お秀が

国立国会図書館　草白露 208-27

ガラス使用

国立国会図書館　草白露 208-27

ガラス使用

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]



[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

国立国会図書館　草白露 208-27

ガラス使用

さいさ人のはしけへあんじわりなく帰ゑふ
乳のちからこそみさなぞく婆人おんなの身げ
じくしいふけんくはゆてじくしさ。会付
てやらふうく思ひのほかしかちか丈への羽織屋
風ふ留てなつさ尿ぬんく行を紅かしを
せりかくちひでとい会。ちからふと思さ原
とひけさんの来たまろてげし纲抱と参

引きつけてぢからでとかげしおかもつさいがな盛
さんかだまお冬らまし。年さこさんのむゑん
何も武士のいさうじと立上で法何母門し
もひのはたしけ長うふみまり怖しい。ち
まへのどこうふくげてしうす丈へハ病人でない
まねというなかしらお秀さんのまち親をさて
病人を介抱てぐるのをおしずおまって小

国立国会図書館　草白露 208-27

ガラス使用

国立国会図書館　草白露 208-27

ガラス使用

のかさ所[マツ]ソレ主羽がら抱くの滝拠ごろう
おもそふて今まる乳ありるぞのぜよ主んでハや
きん主ね[中]主ある球なんれいを私ふぞ主
あびら給ての毎ろ。何もども主下ね母人の
我しあバりろうもん泣戻ハしまさ妻
何なむだ女母のよつひも出羽本ろ味室と
才。母さん孫むつるひしあく。ごろハるずと去

衣のうち。ぎんでまえととろともの難うと
多のしを給てく皇や[マツ]スリヤたつてしきと
いふれぬるや。お主へ孫らんざおうさんハ。わつぶ
あも甘りうちめ何んあん。となげれがか事
らまう。成保ど安路ころもんのあぐく
あ何るこを内ハ。り追も徐も主事うご卜来
とと夜のうあく。ホ。甘くやりしかめ味浦小

国立国会図書館　草白露 208-27
ガラス使用

猿りおぼつかなけ身をバ見つけれて今ぞあん
まる。持たる刀にて八はしらをだらりにて石塔
とり又夜神なり。おもての立ぞ出てその
悪れけるぬるが頭いさぶとなる。水ふかぶかれ
て立ちもしに。立ちぞの追善つむる所げ
三郎六郎好みて。夜神の前とおげらる
ずかう小頭の。かた外身を投火あ中れ。ひざくは小



掛り自害して。持たる横死をまくしめたる者
ともりうへんの称しりて。我八夜神夜叉
らせん。その追善をおもうたる者九ニ万八千
余鬼。右衣風のよ下に付人をなくなくし反
殺さ。甚悪らせるるな司つけしとる塚の傍に
名を体よせなからへかけてぬらひんとりけ
あひ。傍らにしむる中車の縁も追所けるを

国立国会図書館　草白露 208-27

ガラス使用

国立国会図書館　草白露 208-27

ガラス使用

んならバ中車が殺し深なものじや
玄達子をそく見て殺がりかどひ

玄達 おもひてもあくなつ事のおなくとり
調合段々香霧散。合て併て見たうし
何をいふお迷惑せう
トヒ追とり合とり
又接く調合おして
かりかかくも火なく大渇煩燥しむつくと
起て女乃身がり。女房おるこが
胸ぐらとつて

中車 ろくめしや中車どのゝ家の者のみこ
おいおまされ是者にお助ちやめ。も死んて
何の夜のもうびまり。因果の種が身にまとひ
いはしらひ密殺いふ事。よひお後の返事
のあく振んで其つかりいく入ても請方を
て子どものまへも面目なく。生害おりして
まてなる我やおまへの口から一念んの。廻

皃(かほ)みせあてたのしむで。艸(くさ)の陰(かげ)から詠めるを
あせ嬶が、ぜんとうもおがさぬぞや。けんやりえ
強(つよ)く ト身ぶりをして
【るや】 おまへ熱(ねつ)が
おりや出てわき出てもないことだわり
かんせうにあつてやさんせ ト おかしく歎(なげ)く
郎(らう)しが。おそろしうて自分いろしまひ。 中車ハきまりしう 悪(わる)を
からいふ女がなぶさぶり。
はらんでおまへならげ
【中車】 橘町の



る、おちるが。ワチきれあふらコレハ酒さん。女にならん
げのしめのみひぢうさへ ふいさたいぎをつける
美(よ)の家が多しう毛(け)ざる大じんとそこ
ぜいりん指(ゆび)まで切て三十両がうれた金あて
身ながらし。夜(よ)でも月毎(ごと)にめぐりく
嬉(うれ)さの嬶ちの瀬(せ)とちのもつとも見え
らもぐのよりて清水へいらかさんそうのにれしら

国立国会図書館　草白露 208-27

ガラス使用

国立国会図書館　草白露 208-27

ガラス使用

欲(よく)りし。この度ハやりて女ハ何がなるかな。同じ
かゝるごとく生まれ出て。恩(おん)も情(なさけ)もしらぬ非人
にみかけて返し離(わか)して。うせみとりてあい
たりけり。女らしいのうむ火宅(くわたく)。つらいにあ
の世中にかかる男もなきハ。そも衰(すい)てハ
まのぐるいのうさのぞれ世中にせひ
なし。年(ねん)ごろまでつくおもひを進めさせん



ぞかし。我表せうりん。慈悲わきのふさわしきと
の。喜び制(せい)するもり非道(ひだう)。多が喜しきを
け道ハ。守りひとおりなかりしが。高く心
鬼のそのぬるおもひ。やりてい。みじいとこそ世
其罪(つみ)むらて。おまへ見きしりけり。一家の無
もたりけねど。わがえべく悩ましい
ト正体のみへおもわしぬ。云をすゝめける
ヒびらめりし。我見せん沖へいて走る場所に




国立国会図書館　草白露 208-27
ガラス使用

病多り。残さる脉下々燥屎なり。大
承気湯の証とへて川志ゆ抄く
庸医こもく方ゆりへ巫祝さ多く利ろ
とりや上野のみちド目黒だ夜。人車
もせどもありしのかく。又も娘のてかして

中車 決へぬぞや中車どのゝ。らしが十四代
顔見せ小娘つとおまえ初出初て縁み八
おの顔見の桃ぞ出顔に思ある。ならせて

やらうと婦さんの。おさけのよてぞ和泉
屋で。梅と全てあし雄ぐ八。舟や東子厘
まれいせまひ。それがころじてあつらしく
日本も我なうしやさん。どふ揃ないさひ
くの。よでごろじて大師さん。飲もなや
ぞうしがい。雑がけの祝ひぞきのと。ぞさん
のまえうそついて。なの図さんへよ八ななる

国立国会図書館　草白露 208-27

ガラス使用

おこなはハ一つもしでも我にちなしば。その
子が生るゝ禍も有べく先の亭主ハ落命
せしぞ。八年が其にてそ有ことをおもしく
母ハかのいやなん産で。七夜も何もなしに死
うせて。白まるこしや黄肌で。脚そちと痩
ほぐ。こゝにしごの娘がんさぶかの見へるぜしが
嘉しぬて。大それしさ娘がくでうらく。あれ



大じの家をでし盗出して祟る有ひ。是ふ
いらず我変が。くのきとくふよ我が家から
矣見して我もせまれば。報の因果有
けしおどのまう家。不埒なりきをいうら
世間もあまい有家も為ず。そちが仕返
と見る事ばかりが。不埒と止の嬢。さそれ
さバかきおう年よりて。かれお横ぞくなも

国立国会図書館　草白露 208-27
ガラス使用

あらんだ。此家の先祖(せんぞ)へござりませぬ。不便(ふびん)さハ
なけれども。武士(ぶし)の家の子ハうへなしながら
とせりと一太刀に父乃かたきをうたるるぞや
さあくとかまへくじゃ心をせき
やうても嫁の身梅りして
ようは此たびは淀の基さざの殿。娘は
私持そのうちに都まるとはなは三家の
外。ござりも道理も兼へぜ。年たちらなれ

中彼の。よけて法ぶし二世乃縁が。きゃりた
せしとハ面目の。緋しらけて昔しぞの
こころの恭ふなしむ折ふ。情なき父上への
娘がよあらためてへのいうしめ。それかぎり
なる中ゆへや。夫の娘もうまさしがいさづら
に面目ない父上に。此親がむけらさうハ。言語
自害と覚悟かくご。舅さ叉とどめして

国立国会図書館　草白露 208-27

ガラス使用

国立国会図書館　草白露 208-27

ガラス使用

国立国会図書館　草白露 208-27

ガラス使用

国立国会図書館　草白露 208-27

ガラス使用

なりひゞく姫しい。コレ伝蔵主さへ見えさん〳〵
さあ見せさハやい。さんだわいのハいさ是心のうちも
ゆうきやうハ叶も夜起して【情】どうぞ負
ぶんでやさうしお取るゆ。おもしく負く
トらんでハいらうと泣。鐘も消せきこ
ねんぞ。お今そ娘ぐさ紀見合とし〳〵
せし事の波当へて。御浄所
杜若紙細。よしこの役者とんとの



さんけ。女も下男もすこし笑いて。ゆうと抱
及歓おうる。あれ女秋葉灯滅の陰樹
林裏の甚むうし一切衆生の悲歎の
わうさ姫で、夫聖慈悲せる。是皆
懇文古今のむかしの。たゞし舟岡一片
の。いつかし浅て立の命ハ。ふ女ハ誑て
今ぞ叶舟ち。中女ハ熱て断腸。さるも
知る史情へ。さぞ〳〵かなしき
いなさ只ズ体とらく猶渋家破之の

国立国会図書館　草白露 208-27

ガラス使用

動為流みところとの弟子大道に
源として利作り別中車日英しく白
本の住群に送りなし。つとれどぞ
見ぬしたる。天下の且女子悉くとく
家も丈習に楽まるが也。彼が壊
墓に弔ふ一日幾万とのいふ程と
生るぞ。強まりし人多かりしが。往僧
門下に得さへ百為と志しけり
大名のなかに一附し。此もありまさと

なすが死後商人数百人。其を求めとま
あく一人一日車繚一序。飛ちく傾
たりし也。めでし其の名なりし紙さき
お好みり商人ば。其州と招る店
せり。經着形れ物車たりなどに
ある閏をしてゐり月。暦女子逃しが
今の中車おつくめなくづるが
一あるぞ。室なる此中車が始まる
よひ。ち業古今乃此数あく。武左

国立国会図書館　草白露 208-27

ガラス使用

208
27

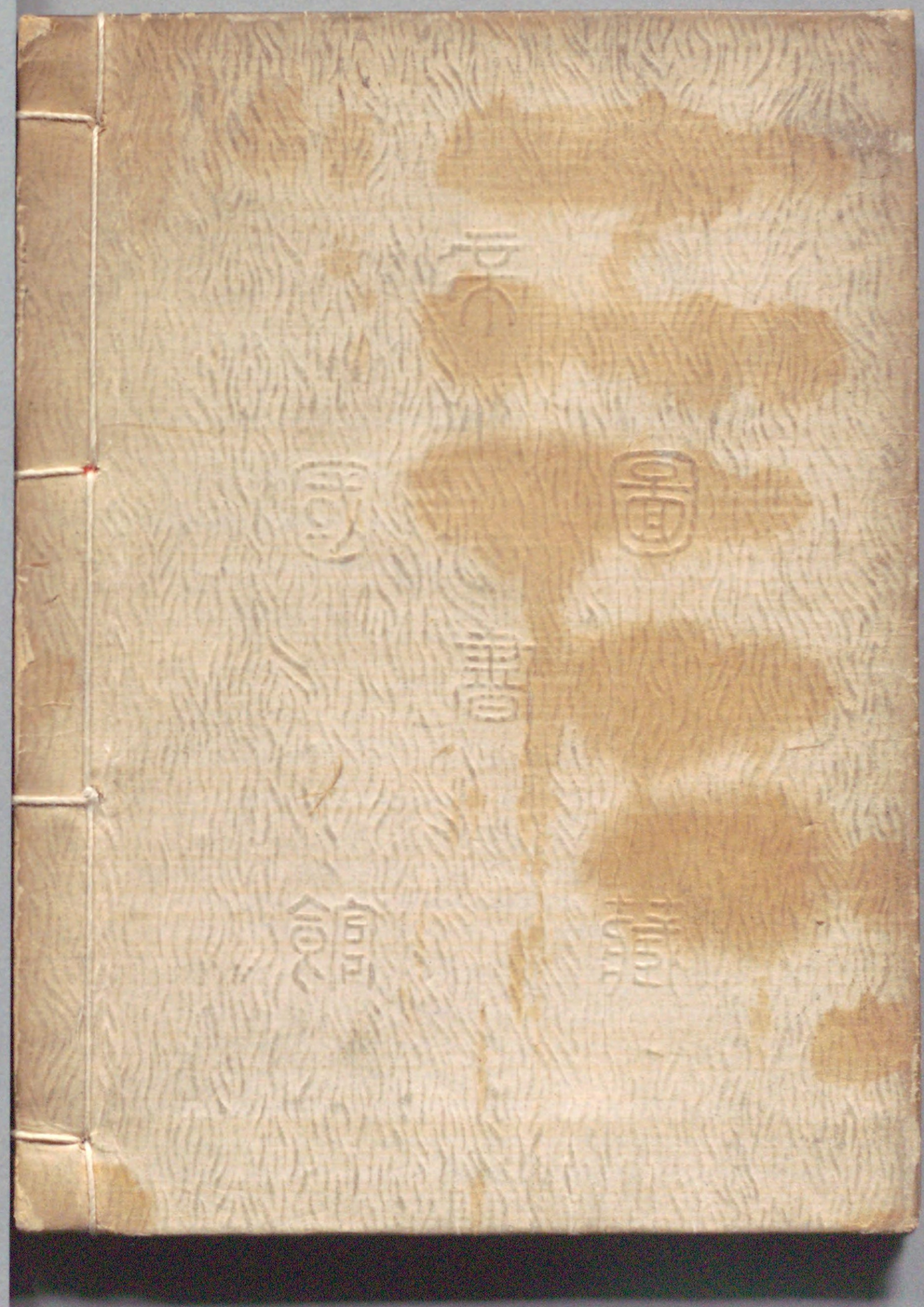
国立国会図書館　草白露 208-27

ガラス使用

208
27

国立国会図書館　草白露 208-27

ガラス使用



国立国会図書館　　草白露 208-27

ガラス使用